

2019 年度事業報告書

(2019 年 5 月 1 日から 2020 年 4 月 30 日まで)

一般社団法人つくろい東京ファンド

当法人の目的を達成するために、関連諸団体・個人と連携をとりつつ、次のとおり事業を実施した。

1. 個室シェルター「つくろいハウス」の運営

- 1) 他の生活困窮者支援団体等と連携をしながら、住まいのない生活困窮者のための個室シェルター「つくろいハウス」(中野区、定員 7 名)を継続して運営した。
- 2) 中野区内及び新宿区内の借り上げ住居において、入居者各 1 名を継続して受け入れた。
- 3) 必要に応じて、「つくろいハウス」入居者及び退所者(約 70 名)への安否確認、福祉・住宅等の相談及び食料支援を実施し、他の生活困窮者支援団体等と連携をしながら入居者や退所者が安定した生活をおくれるための支援をおこなった。

2. 「潮の路珈琲」、「潮路書房」事業及び「カフェ潮の路」の開設・運営

- 1) ホームレス経験者の仕事づくりのため、自家焙煎の「潮の路珈琲」の製造・販売を 2019 年 7 月末まで行なった。同事業はメンバーの高齢化や病気のため終了したが、2019 年 12 月、新たな仕事づくり事業として、焼きいもプロジェクトを開始し、古書店「潮路書房」も開店した(新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、2020 年 3 月 31 日より休業中)。
- 2) ホームレス経験者の居場所づくり、仕事づくり及び地域住民との交流の場をつくるため、「カフェ潮の路」(1 階コーヒースタンドは週 4 回、2 階カフェは週 2 回)を年間通して運営した(新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、2020 年 3 月 31 日より休業中)。

3. ステップハウス「ふらっとハウス」、「ふたまるハウス」の運営

認定 NPO 法人ビッグイシュー基金との提携のもと、ビッグイシュー販売者など住まいのない生活困窮者のステップハウス兼シェルターとして、「ふらっとハウス」(定員 2 名)を 2019 年 6 月まで運営した。ビッグイシュー基金東京事務所の転居に伴い、「ふらっとハウス」は閉鎖したが、2020 年 3 月、同基金の新事務所近くに「ふたまるハウス」(定員 3 名)を開設した。

4. シェアハウス「ハナミズキの家」の運営及び「ことといこども食堂」事業

- 1) 墨田区内の若者向けシェアハウス「ハナミズキの家」(定員 3 名)において、東京の住宅費の高さに悩む若者の受け入れを継続しておこなった。
- 2) 「ハナミズキの家」のキッチンスペースにおいて、月 2 回、「ことといこども食堂」を継続して開催し、地域の子どもたちに食事と交流の場を提供した(新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、2020 年 2 月 27 日より休業中)。

5. 「ちはやハウス」、「しいなハウス」等の運営

豊島区・板橋区において、「ちはやハウス」（定員2名）、「しいなハウス」（定員4名）など計9室を借り上げ、NPO法人TENOHASIとの連携のもと、住まいのない生活困窮者の受け入れを継続しておこなった。

中野区において、「LGBTハウジングファーストを考える会・東京」との連携のもと、「LGBT支援ハウス」（定員1名）の運営も継続しておこなっている。

また、2020年3月より、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う住居喪失者の増加に対応するため、個室シェルターの増設に努めている。

5. 東京アンブレラ基金の設立と運営

2019年4月、住居喪失者の緊急宿泊支援のため、都内のさまざまな団体と連携をして、「東京アンブレラ基金」を設立した。同基金では、クラウドファンディングで集まった寄付金をもとに、協働団体（2020年4月時点で14団体）が実施した緊急宿泊支援の費用を補助する事業をおこなっている。

6. 広報

ウェブサイト及びSNS（Twitter、Facebook）による発信をおこなった。

7. ファンドレイジング

- 1) 当法人の事業資金を調達するため、クレジットカード等を通じた寄附金の募集等をおこなった。
- 2) 当法人のキャラクターグッズを販売し、資金調達の一助とした。
- 3) 東京アンブレラ基金設立のためのクラウドファンディングを実施した。